

⑫ 公開特許公報 (A) 平4-149103

⑬ Int.Cl.³A 01 N 31/04
35/02
37/10

識別記号

府内整理番号

8930-4H
8930-4H
8930-4H

⑭ 公開 平成4年(1992)5月22日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 屋内塵性ダニ類防除剤

⑯ 特 願 平2-276028

⑰ 出 願 平2(1990)10月15日

⑮ 発明者	松永 信一	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑮ 発明者	齋藤 由美	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑮ 発明者	吉田 繩親	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑮ 発明者	塗崎 文男	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑮ 発明者	島村 治夫	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑯ 出願人	大正製薬株式会社	東京都豊島区高田3丁目24番1号	
⑰ 代理人	弁理士 北川 富造	東京都豊島区高田3丁目24番1号	

明細書

1. 発明の名称

屋内塵性ダニ類防除剤

2. 特許請求の範囲

(1) ケイ皮酸ニチル、ケイ皮酸メチル、ケイ皮アルコール、酢酸シンナミル、D-α-ヘキシルシンナミルアルテヒドから選択される少なくとも1種を有効成分として含有することを特徴とする屋内塵性ダニ類の防除剤。

3. 発明の詳細な説明

(雇用上の利用分野)

本発明は屋内塵性ダニ類の防除剤に関する。

(技術的特徴)

近年、住宅環境、生活様式の変化に伴い、屋内塵性ダニ類(クワガタツメダニやフトツメダニ等のツメダニ類及びコナヒョウヒダニ、ヤケヒョウヒダニ等のヒョウヒダニ類をさす。以下同じ。)

が多量発生するようになってきており、そのためにツメダニ類による虫咬症、ヒョウヒダニ類によるアレルギー性疾患が問題になってきている。

従来これらダニを防除するために有機リン系化合物、カーバメート系化合物、ビレスロイド系化合物がエアゾール剤、シート剤、粉剤等の形で用いられていた。

一方、ケイ皮酸ニチル、ケイ皮酸メチル、ケイ皮アルコール、酢酸シンナミル及びD-α-ヘキシルシンナミルアルテヒドは、化粧品や食品に使用されていた。

(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、従来から用いられているダニ防除剤は人畜毒性が高かった。

(課題を解決するための手段)

そこで本発明者は人畜毒性が低く、しかも各種のダニ類に対し優れた防除効果を有するダニ防除剤について検討研究を重ねた結果、ケイ皮酸ニチル、ケイ皮酸メチル、ケイ皮アルコール、酢酸シンナミル、D-α-ヘキシルシンナミルアルテヒド

BEST AVAILABLE COPY

実施例 6 と同様にして結果を得た。

実施例 6

ケイ皮酸エチル 60g をケコシンで溶解して全体を 150ml とし、これをニアソール缶に充填した後バルブを密閉し、液化石油ガス 150ml をバルブ部分より注入充填してニアソール剤を得た。

実施例 7

実施例 6 において、ケイ皮酸エチルの代わりにケイ皮酸メタルを用いた他は実施例 6 と同様にしてニアソール剤を得た。

実施例 8

実施例 6 において、ケイ皮酸エチルの代わりにケイ皮アルコールを用いた他は実施例 6 と同様にしてニアソール剤を得た。

実施例 9

実施例 6 において、ケイ皮酸エチルの代わりにケイ皮アルコールを用いた他は実施例 11 と同様にしてシート剤を得た。

実施例 10

実施例 11 において、ケイ皮酸エチルの代わりにケイ皮酸シナミルを用いた他は実施例 11 と同様にしてシート剤を得た。

実施例 11

実施例 11 において、ケイ皮酸エチルの代わりにローラヘキシリシンナミルアルテヒドを用いた他は実施例 11 と同様にしてシート剤を得た。

実施例 12

フラッシュミキサー機にタルク 10.25 重量部、無水珪酸 10 重量部、フェノトリン 0.5 重量部及びケイ皮酸エチル 10 重量部を仕込みプレミックスを得た。
このプレミックスとタルク 10.25 重量部を V 字型混合機に仕込み、30 分均一に混合して粉剤を得た。

酢酸シンナミルを用いた他は実施例 6 と同様にしてニアソール剤を得た。

実施例 13

実施例 6 において、ケイ皮酸エチルの代わりにローラヘキシリシンナミルアルテヒドを用いた他は実施例 6 と同様にしてニアソール剤を得た。

実施例 14

ケイ皮酸エチル 200g をエタノールで溶解し、フラット瓶に平方メートル当り 100ml を布し乾燥させてシート剤を得た。

実施例 15

実施例 14 において、ケイ皮酸エチルの代わりにケイ皮酸メタルを用いた他は実施例 14 と同様にしてシート剤を得た。

実施例 16

実施例 14 において、ケイ皮酸エチルの代わりに

実施例 17

実施例 16 において、ケイ皮酸エチルの代わりにケイ皮酸メタルを用いた他は実施例 16 と同様にして粉剤を得た。

実施例 18

実施例 16 において、ケイ皮酸エチルの代わりにケイ皮アルコールを用いた他は実施例 16 と同様にして粉剤を得た。

実施例 19

実施例 16 において、ケイ皮酸エチルの代わりにケイ皮酸シナミルを用いた他は実施例 16 と同様にして粉剤を得た。

実施例 20

実施例 16 において、ケイ皮酸エチルの代わりにローラヘキシリシンナミルアルテヒドを用いた他は実施例 16 と同様にして粉剤を得た。

(試験4.)

（1）・（2）の大きさのろ紙（重浮ろ紙105C）に所定の量（ $0.2\text{g}/\text{m}^2$ または $0.5\text{g}/\text{m}^2$ ）となるよう本発明の屋内殺性ダニ類の防除剤の有効成分のアセトン溶液 1.5ml を含浸させる。ろ紙を除去後、この含浸紙上に約50頭のケナガコナダニ生虫をおき、含浸紙を半分に折り、その1辺をクリップではさむ。これを25℃、10%RHの条件下に置き24時間後、ダニの生死を観察した。

第1表に結果を示した。

本発明の屋内殺性ダニ類の防除剤の有効成分は、第1表で示るよう優れた殺ダニ効果を示した。

特許出願人 大正製薬株式会社

代理人 井理士 北川 審造

BEST AVAILABLE COPY

第 1 表

供試樹体	致死率 (%)	
	$0.2\text{g}/\text{m}^2$	$0.5\text{g}/\text{m}^2$
ケイ皮酸エチル	100	100
ケイ皮酸メチル	85.0	100
ケイ皮アルコール	88.6	100
酢酸シンナミル	88.7	100
α-β-ヘキシルシンナミルアルデヒド	88.8	100